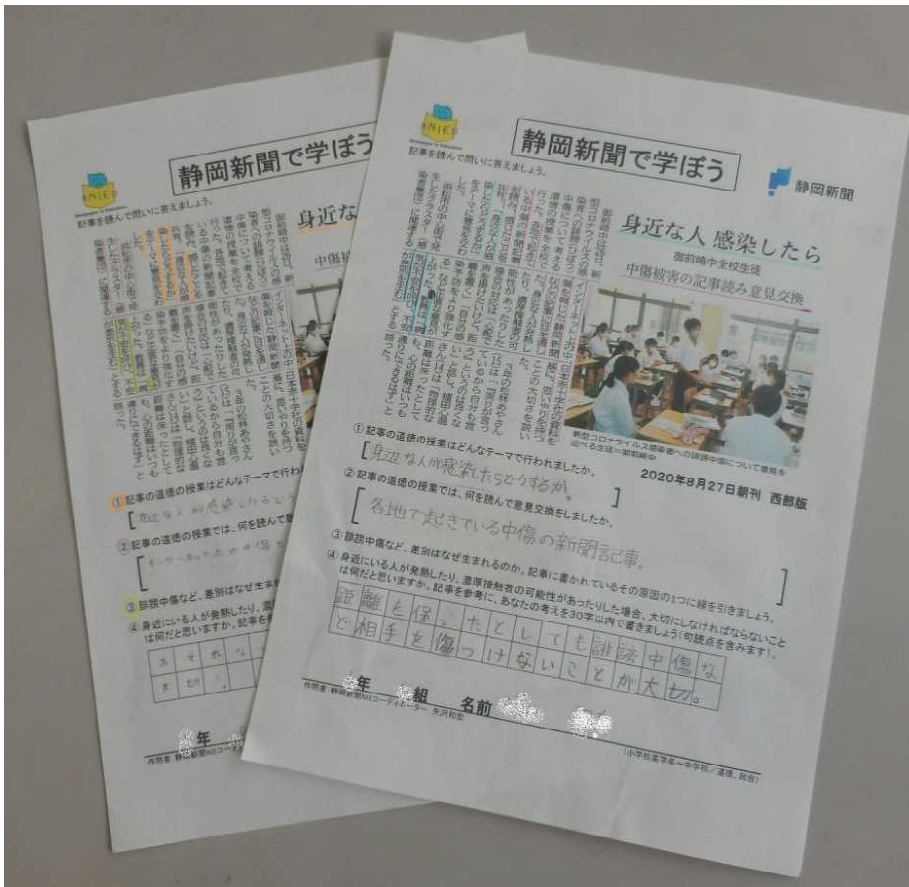


# 新聞記事でコロナ感染症について考える

5年生、6年生では、静岡新聞社の新聞ワークシートを使ってコロナウイルス禍での思いやりの在り方を考えました。



新聞記事は、御前崎中学校で行われた「新型コロナウイルスの感染者への誹謗中傷について考える道徳授業」について書かれていました。

この授業は、感染者への誹謗中傷の記事を読んだ中学生が、「身近な人が感染したら」を考える授業です。

中学生がコロナウイルス感染者への誹謗中傷について考える授業の記事を通して、5・6年生も「身近な人が感染者になったときに大切にしなければならないこと」を考えました。

た。子どもたちは

- ・心配で声をかけたいと思う。そのときには、ソーシャルディスタンスを守ることと差別をしないことに気をつけたい。
- ・差別をしないで、自分自身の予防をしっかりする。
- ・人と人との距離は保って、でも、接し方はふつうにする。
- ・ソーシャルディスタンスはとっても、避けたり、差別したりしないことが大切だと思う。
- ・ソーシャルディスタンスを保ったとしても、誹謗中傷など相手を傷つけないことが大切。
- ・身近にいる人が発熱しても、いじめや差別をしてはいけない。
- ・相手との距離を保ちながらも相手を差別せず生活することが大切。

とコロナウイルスへの対応をしながらも、思いやりをもって人と接することが、大切であることに気づいていったようでした。